美術・図工科教育部会

１人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか

Ⅰ　研究の内容

○子どもの課題や実態に合った題材と授業づくり
・子どもの課題や実態から,ねらいをはっきりさせ,より創造的な資質や能力が発揮できる題材の研究を進める。
・様々な場面で子ども１人ひとりに表現の喜びを感じさせる。また,その表現を通し自分や自分の周りの人々,社会,自然環境などを見つめ,子どもが主体となる授業の組み立て方を工夫する。
○子どもの表現活動に寄り添う支援の在り方
・子どもの思いに寄りそう支援の在り方を考える。
・子どもが何に悩み,どのように考え,試行錯誤した末どのような表現に繋がったのか,作品を表面的にではなく,子どもの声として色々な角度で多様に読み取る研究をする。
○つながりと広がり,先を見通した実践の積み重ね
・子ども同士が関わり合い,話し合うなど互いに学び合うことのできる場の設定を試みる。
・題材と題材の関連や小中学校の連携を考えたり,他教科との関連を図ったりすることで,系統的・発展的なカリキュラムの工夫をする。
・子どもの生活を取り巻く地域や社会,それに関わる人々とのつながりをもった美術教育を通し,自分自身や社会を見つめていけるようにする。

１　研究の柱に沿って小中学校合同で授業案の検討,実践,検証を行う。また一人一実践により作品研究を実施し,授業の在り方を考える。

◇中学校の実践から（９月統一授業研）

『世界に発信勝沼ワイン～勝沼の魅力がいっぱい～』　《２年生》　勝沼中　渡邉貴子先生

この題材は生徒達が住む勝沼の魅力を発見しワインボトルのラベルとして表現するものである。深く考えてアイデアを練り上げることや自分の表したいことを深く見つめて形や色にこだわって追求することに課題がある生徒の実態に合わせて行った。また伝える相手を身近な人だけでなく社会や多くの他者に広げて発想・構想させる題材である。

まずワインのラベルの鑑賞をさせ,その特徴をつかませた。そして勝沼の魅力を表現するためにどんな形,どんな色,どんなデザインがふさわしいのかを考えさせた。自分の住む地域から出たことのない生徒には,そこの良さはなかなか分からないようであった。

甲州の様々な歴史や文化遺産,自然などの資料の提示や使用する紙類の提示などを行うことによって生徒の中にイメージが広がっていった。完成したラベルはシールにしてボトルに貼り,勝沼図書館に展示して頂いた。

◇小学校の実践から（２月統一授業研）

『ぱちぱち　ぱっちん』　《１年生》　神金小　広瀬きよ美先生

本題材は細長い神をつないだりつるしたりしてできる形や，つなぐ紙の形や色をとらえてイメージを広げていく活動である。「教室いっぱいに紙をつなぐ活動に身体全体を使って関わり，活動のなかでできる形の特徴を味わいながらつくりたいものやつくり方を思いつくこと」や，「思いついたことを基にさらにつないだり組み合わせたりしながら自分なりに工夫してつくること」が育てたい資質や能力である。子どもたちはホチキスの扱いにも慣れてどんどん無心につなげていった。時々離れて眺めたり良いところきれいなところを見つけたりして楽しみながら活動することができた。

◇県教研レポート

『劇的空間　ビフォーアフター』　　第１学年　　勝沼小　古屋ゆか先生

本題材は校舎の中の様々な場所の形や色などの特徴をとらえ,そのイメージから発想していろいろな材料を使って場所をつくり変えるという内容の造形遊びである。

子どもが自分の思いにあわせて工夫しながら空間を作る経験は,子どもにとっては多少の抵抗感があり,手や身体全体を使って活動することで造形活動の自信につながると考えた。この授業を行うことで,今まで何もなかった場所が自分にとって大切な場所になったり,違学年の児童からもコメントをもらったり,と面白さや楽しさを存分に味わうことができたようである。

Ⅱ　成果と課題

小中合同でしかも会場持ち回りで研究することで，互いの学校の子どもの課題も見えるし，実態にあわせた指導を研究することができた。テーマが取り組みやすく生徒の実態に応じた題材を選定することができた。

継続した研究テーマなので研究の積み上げができた。夏季研修を勝沼中学校で行った研究授業につなぎ生かすことができた。ワインのラベルをみんなで見てどのようなものがあるか学びあえたので研究会でも同じ視点に立って話し合うことができた。研究授業だけでなく実技・鑑賞教育・実践発表などバラエティーに富んでいて良かった。一人ひとりの力を引き出すような学習にしていくためには題材名や提示の仕方がポイントになる。指導する側が学習のねらいをしっかり持っていること，そのための題材研究が不可欠だということを再確認しあえた。今年度は県教研への参加，全国教研へつながる研究ができた。

部員数が少ないことが課題である。部会員以外への研究の広がりもたせることが必要になってくる。校内への作品の展示や材料の扱い方，道具の使い方などを学習することで部会員のいる学校から少しずつ成果を広げていきたい。図工美術指導会で鑑賞（アートカードの活用方法）や実技について学び合う時間を取り入れたい。

（部長　小林　紀子）